



漁業管理課
直 通：092-643-3555
内 線：4103、4114
担 当：佐藤、中村

福岡県ブルーカーボン推進協議会を開催します！

～水産高校生らがブルーカーボンの取り組みを発表～

海藻に吸収・固定される二酸化炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、近年、脱炭素社会の実現に向けて大きな役割が期待されています。

県では、令和6年4月に、ブルーカーボンの創出を推進するため、筑前海沿岸の漁協や市町、九州大学、県立水産高校等で構成される「福岡県ブルーカーボン推進協議会」を立ち上げました。

発足以来、協議会会員同士が連携して、藻場の保全活動を推進し、①藻場の再生、②海藻に吸収・固定されるCO₂のクレジット化、また、③除去したウニを養殖し有効活用するといった、「一石三鳥」※となるブルーカーボン創出のための取り組みが行われています。

今回、10月16日に協議会を開催し、水産高校生による活動報告や、県内各地での取組事例の報告会を行います。

1 日時

令和7年10月16日（木）14時30分～15時30分（受付14時00分から）

2 場所

福岡県水産会館5階 大研修室
（福岡市中央区舞鶴2丁目4-19）



ウニ除去活動

3 内容

・事例報告

- （1）投石の再配置による藻場再生の取組 （福岡県水産海洋技術センター）
- （2）海の森がつなぐ地域のサステナビリティ （一般社団法人ふくおかFUN）
- （3）大島におけるウニ養殖と試験販売 （宗像漁業協同組合大島支所）
- （4）みらうみプロジェクトにおける海洋人材の育成とブルーカーボン創出への取組
（福岡県立水産高等学校）

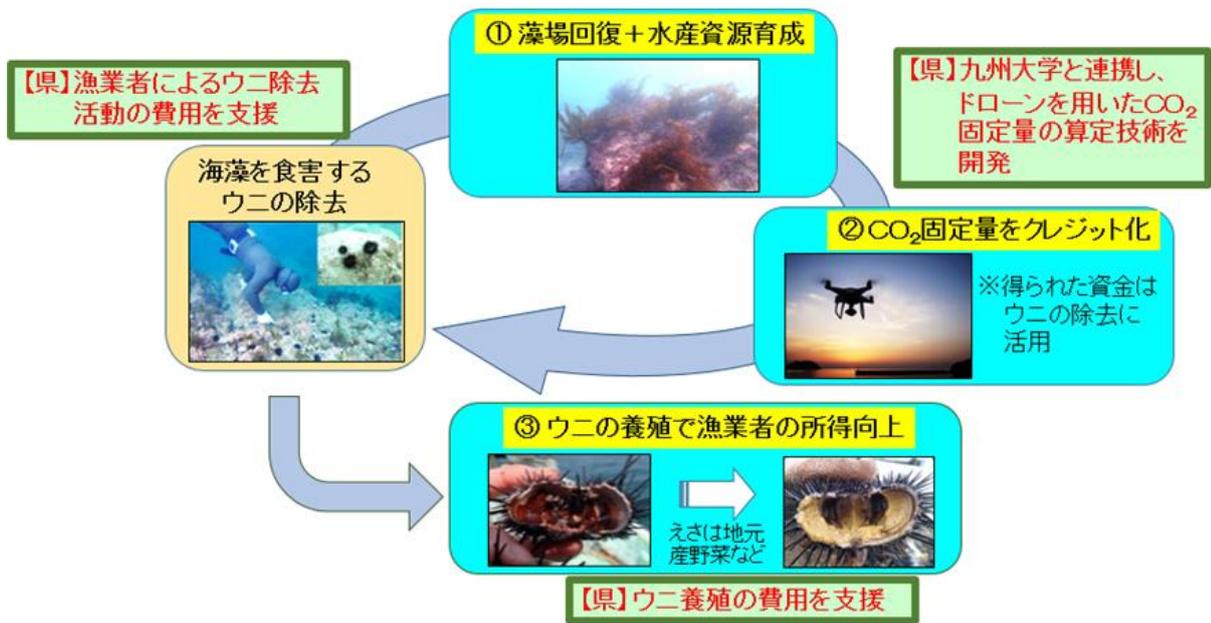
・質疑応答

4 主催

福岡県ブルーカーボン推進協議会

※ブルーカーボンの創出で「一石三鳥」

海藻の食害要因であるウニを除去することで、①藻場の回復と水産資源の育成、②海藻によるCO₂吸収をクレジット化し、その資金をウニの除去に活用、③除去したウニの養殖・商品化による漁業所得向上という「一石三鳥」の効果がある。



★ 報道機関の皆さまへ

報告会終了後、15時45分まで同会場で、福岡県ブルーカーボン推進協議会、福岡県立水産高校、県水産海洋技術センターが取材対応します。